

令和5年度水戸市への政策提言、要望事項

<目次>

■政策提言

世界三大都市型公園宣言を中心とした、未来へのレガシーを創造するまち

1. 新たな視点で、スマートで持続可能な観光を提案するまちに向けて

- (1) 世界三大都市型公園宣言を通じた新たな価値の創造・・・〔新規提言〕 … 1
- (2) サイクルツーリズムの推進・・・〔継続提言〕 … 2
- (3) オールシーズンでの観光誘客のための取り組み・・・〔継続提言〕 … 3
- (4) 「M i t o r i O」エリアから
 - 西の谷公園を經由した跨線橋の設置・・・〔新規提言・継続提言〕 … 3
- (5) 充実した観光インフォメーションセンターの設置および
 - 水戸駅バスターミナル利用環境整備・・・〔継続提言〕 … 5
- (6) 団体客に対応できる大型観光バス駐車場の整備・・・〔新規提言〕 … 6

2. 歴史・文化を知り、魅力を語り継ぐまちに向けて

- (1) 水戸学の理念「文武不岐」の聖地づくりと武道ツーリズム・〔継続提言〕 … 7
- (2) 水戸市内の歴史をめぐる回遊性あるルート策定と
 - 備前堀周辺地区の再開発による下市地区の活性化・・・〔新規提言〕 … 7
- (3) 歴史的遺産の整備と観光ボランティアの育成・・・〔継続提言〕 … 9
- (4) 武家社会が成立した中世の歴史遺産の発掘・・・〔継続提言〕 … 10

3. 豊かな食文化を発信し、健やかな生活を提案するまちに向けて

- (1) 学校給食の地産地消推進・・・〔新規提言〕 … 11
- (2) 全国納豆鑑評会の水戸での継続的開催誘致・・・〔新規提言〕 … 11

■ 要望事項

1. 中小企業振興策

- (1) 水戸市プレミアム商品券事業・・・・・・・・・・〔新規要望・継続要望〕 ……12
- (2) キャッシュレス決済の普及・促進・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……12
- (3) 原油価格高騰の影響を受ける運輸事業者への支援・・・・・・・・〔継続要望〕 ……13
- (4) 地元企業からの物品調達促進、公共事業優先発注継続と公共工事の
品質確保に合わせた適正価格・見積期間設定・・〔新規要望・継続要望〕 ……14
- (5) 制度融資利子補給の継続・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……15
- (6) デジタル化促進による行政手続きのさらなる利便性向上・・〔継続要望〕 ……16
- (7) 「みとっ子お仕事探検隊」への協力・支援継続・・・・・・・・〔継続要望〕 ……17

2. 環境および基盤整備

- (1) 観光資源(ロマンチックゾーン・大塚池・成就院池周辺)の
観光客受け入れ態勢の整備・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……19
- (2) 千波公園周辺の環境整備・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……20
- (3) 水戸市内の渋滞緩和・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……21
- (4) 自転車通勤の促進および自転車・電動キックボードの
利用増加に伴う安全教育の実施・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……22
- (5) レンタサイクル「みとちやり」のステーション拡充・・・・・・・・〔新規要望〕 ……23
- (6) 中核市としての充実について・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……23

3. 中心市街地等地域活性化策

- (1) 中心市街地における居住環境整備(利便性向上)・・・・・・・・〔継続要望〕 ……25
- (2) 巡回タクシーの運行と新たな交通手段の整備検討・・・・・・・・〔継続要望〕 ……25
- (3) まちなか固定資産税軽減と企業立地助成制度の改正・・・・・・・・〔継続要望〕 ……26
- (4) 空き店舗率の改善に向けた取り組みへの連携と支援および
支援地区の拡大・・・・・・・・・・〔新規要望・継続要望〕 ……27
- (5) 『I B A R A K I F R E E W i - F i 』設置施設の拡充および
W i - F i を活用したサービスの提供・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……28
- (6) 中心市街地における防犯カメラの設置、設置助成金の創設・〔継続要望〕 ……29
- (7) M i t o r i O (ミトリオ)周辺エリアの
環境整備・イベント実施について・・・・・・・・・・〔継続要望〕 ……29

政策提言

世界三大都市型公園宣言を中心とした 未来へのレガシーを創造するまち

水戸商工会議所では、令和6年2月21日から23日までの3日間、令和5年7月にオープンした水戸市民会館をメイン会場に、日本商工会議所との共同開催にて「全国商工会議所観光振興大会2024 in水戸（以下、本大会）」を開催いたします。

『「自分の道を見つける旅へ。」～刺激を求めての観光から、あなたの答えを見つける観光への転換～』を大会テーマに掲げ、ビヨンドコロナにおける観光の在り方を見直し、持続可能な観光開発と地方が輝く観光振興策の提案、また「道」にちなんだ分科会や全体交流会、エクスカージョンなどにより、水戸市の魅力や観光優位性を全国各地から参集する商工会議所関係者に伝えてまいります。

今回の提言では、本大会で開催される分科会の4つの視点、「観光（動かす道）」・「歴史・文化（自らの佇まいを整える道）」・「食（日本の食を訪ねる。それは自分の健康を取り戻す道）」・「健康（美しく年を重ねる道）」の中から、「観光」・「歴史・文化」・「食」の3つの視点に基づいた内容を提出させていただきます。今回の提言が、過去から現在まで大切につないできた水戸市の『レガシー』を守りつつも、新しくより魅力的な『レガシー』の創造につながるものとなれば幸いです。

1. 新たな視点で、スマートで持続可能な観光を提案するまちに向けて

〔新規提言／正副会頭〕

(1) 世界三大都市型公園宣言を通じた新たな価値の創造について

現状や背景

1800年代半ばに開かれ、日本三名園のひとつとして古くからその名を馳せた偕楽園は、世界第2位の規模を誇る都市型公園としても数えられている。市民の暮らしに寄り添う自然公園としてあるセントラルパークやハイドパーク、そして『偕楽園を中心とした千波湖周辺地域大規模公園（以下、偕楽園公園）』は、近代市民感覚の訪れとともに歩んできた、世界水準の未来的文化を象徴する公園である。その中であって偕楽園公園は、「一張一弛の精神に基づいて生まれ、まちとともに育ち・守られてきた」、「地理的条件・ありのままの自然が生かされた公園であり、一張一弛の精神がそのまま“まち”の形となって残っている」という点において、他の二つの公園にはない特筆すべき魅力を有しており、それが現代の今日まで、180年以上にわたって水戸の街の中心で息づいているということは、世界に誇れる奇跡である。

世間の消費への考え方が『モノ(物)消費』から、商品やサービスに「体験」や「経験」に価値を求める『コト(事)消費』・『トキ(時)消費』へ、そして次代を担うZ世代といわれる若年層においては、商品やサービスを消費することで生まれる、社会貢献的側面を重視する『イミ(意味)消費』へと変化する中で、世界水準の公園・自然環境と偕に歩み・楽しみ・守ってきた先進的な文化が水戸にはある。

問題点・課題

偕楽園が開かれた昔から、自然環境とひと続きになった偕楽園公園がすぐそばにあり、その恩恵を自然の営みとともに感じながら、ごく当たり前のようにその環境に親しみ慈しんできた。

しかしながら、それが日常的で当たり前であるからこそ、その環境が世界的に見ても稀有なものであり、存在そのものに価値があることに気付いていない水戸市民も多い。そのため観光イベントなども、奇跡の地「水戸」自体の魅力を十分に伝えるものになっていない。

また、少子高齢化が進展し、人口減少社会の中にある日本においては、その視点を海外に向けた必要があり、世界水準の公園・自然環境である『偕楽園公園』有する水戸市は、各観光地間の厳しい競争を生き抜けるポテンシャルを十分に有する。

提言内容

①世界三大都市型公園宣言に向けた関係機関との連携・働きかけ

自然と都市生活が融合した生活文化をあらためて確立させ、水戸の魅力の独自性を広く世界に宣言していくために、水戸市と同様に世界的規模を誇るセントラルパークを擁するニューヨーク・そしてハイドパークのロンドンとともに、『世界三大都市型公園宣言』を行い、そのブランディングを図るとともに、次世代の公園が持つ意義や環境とともに生きるという先進的なメッセージを世界に届ける。

また、『世界三大都市型公園宣言』早期実現のために、魁の地「水戸」のイニシアテ

イブにより、それらの地との積極的な交流や意見交換の場を設けること、さらに、その関係性を一層強化し、各地の魅力をより広く世界に発信し続けるため、将来的には『世界三大都市型公園サミット』を開催する。

②コンテンツ強化による『イミ(意味)消費』の拡大

前述のとおり、消費の潮流は『イミ(意味)消費』になっている。「一張一弛」や「陰陽思想」の精神、「豊かな水辺環境」など、形として見えにくいもの、表現しにくいものを消費に繋げるために、今までの考え方や方法に捉われない新たな視点(見せ方・売り込み方など)を持つことが必要である。また、偕楽園公園に直接関係はないものの、水戸市が誇る魅力的な各コンテンツ(全国花火競技大会において、最高賞である総理大臣賞を最も多く受賞し国内外に多くのファンを持つ野村の花火(野村花火工業)など)とのコラボレーションは消費拡大にも効果的であると考えられる。

しかしながら、新たな取り組みを実施する際にはさまざまな課題が生じ、実現困難となることが多いことから、魅力的なコンテンツがブランディングや消費拡大に役立つと判断できるプラン・考えに対して、費用面(補助金)・許認可申請補助など積極的な支援を行っていただきたい。

〔継続提言／アートとサイクリングで元気なまち創造委員会〕

(2) サイクルツーリズムの推進

現状や背景

令和5年10月に実施される茨城デスティネーションキャンペーン(茨城DC)では県南地域のつくば・霞ヶ浦リンリンロードを中心にサイクルツーリズムが推進され、サイクルトレインをはじめ各種観光キャンペーンも展開されると聞き及んでいる。水戸市においては、つくば・霞ヶ浦リンリンロードの沿線地域ではないものの、県内のサイクルルートとして大洗・ひたち海浜シーサイドルートや奥久慈里山ヒルクライムルートの発着地点となっており、県央、県北地域のサイクルツーリズムの拠点となるポテンシャルを有している。

また、駐輪に際しては公共施設への駐輪場の整備が進められており、自転車の利用促進に寄与しているものと思われる。

問題点・課題

- ・茨城DCにより弾みのついたサイクルツーリズム推進のため、水戸市が主導し県央、県北地域の観光振興に寄与する必要がある。
- ・車道混在の自転車走行環境を整理し、自転車にやさしい街づくりを推進する必要がある。また、民間地における駐輪場の整備を推進する必要がある。

提言内容

①長期的展望に立ったサイクルツーリズムの推進

- ・茨城DCで得た知見を生かした、中長期的な視点に立ったサイクルツーリズム推進のための施策展開。
- ・水戸商工会議所が実施している「水戸八景グルメライド」をはじめ、民間の取り組みに対する支援。

②民間施設におけるサイクルラックの設置増進

民間施設へのサイクルラック設置増進を図るための、導入補助などの施策展開。

〔継続提言／観光サービス部会〕

(3) オールシーズンでの観光誘客のための取り組み

現状や背景

水戸の梅まつりでは全国各地から、多くの観光客が訪れるが、他のシーズンで同じように注目を浴びる観光イベントが少ない。そのため、イベントだけに頼らない、年間を通じた観光客を呼び込むための対策が必要である。

問題点・課題

地元の人々との交流は観光に重要な要素である。観光客自身も、観光パンフレットには載らない地域の魅力を、その土地の人々との交流を通して得られることを望んでおり、そのためには、観光客と水戸市民が協働で取り組める（ともに参加できる）ようなイベントが日常的に開催されると望ましい。

提言内容

①市民公園を活用した市民協働イベント開催

市民公園を活用した市民協働イベント（例：寄せ植えや薬草についての教室、庭のつくり方、ドライフラワー・リースづくりなど）を、水戸市民と一体になって取り組むことで、パートナーシップを形成し持続的な協力関係を築く。

②電動キックボードのシェアリングサービス実施

今年7月から一定基準を満たした電動キックボードに、自転車と同様の交通ルールが適用された。疲れずより広いエリアを巡ることができ、環境にも配慮した移動手段である電動キックボードを観光目的の移動ツールとして活用できるようにする。

※常陸太田市では令和4年10月末から令和5年2月まで、駅や市役所など同市内3か所で電動キックボードを貸し出し、スマートフォンの専用アプリに登録し30分100円、30分以降は1分10円で利用する実証実験を行った。

③インフルエンサーとのタイアップによる魅力発信

水戸市には水戸市内在住でインスタグラムのフォロワー数が6万を超えるインフルエンサーがおり、飲食店で無言のまま食事する風景を毎日投稿している。その投稿を見て有名な一流シェフがお店に食事目的で来店したり、聖地巡礼として投稿したお店を巡るなど想像以上の効果があることから、水戸の魅力を発信する有効なツールとして活用する。

〔新規提言・継続提言／卸商業部会・公園都市文化創造委員会〕

(4) 「M i t o r i O」エリアから西の谷公園を經由した跨線橋の設置

現状や背景

千波湖と偕楽園を有する千波公園は世界第二位の規模を持つ都市型公園として、水戸市の代表的な自然資産であり、年間を通じて多くの水戸市民や観光客でにぎわっている。千波公園西の谷は水戸市の中心市街地から千波湖をつなぐ重要な緑地帯であり、導線の確立が水戸市の活性化に大きく寄与するものと考えている。

令和5年7月に開館した水戸市民会館を核とする水戸芸術館、京成百貨店を含めた「M i t o r i O」エリアは、水戸市の新しいにぎわい拠点であり、水戸商工会議所としても同エリアを中心とした中心市街地活性化に大きな期待を寄せている。今後「M i t o r i O」と千波公園の回遊性向上はますます重要な課題となる。

水戸市は国内でも有数の都市型公園として都市生活と自然が融合したライフスタイルの文化を創るというポテンシャルがあり、公園を活用した都市デザインにより居住、交流双方の人口増が期待される。

問題点・課題

「M i t o r i O」エリアから千波公園へ向かう導線は、現在以下の3ルートが設定されているが、いずれも「M i t o r i O」エリアから大きく迂回する必要があるため、徒歩での導線としては適さないと考えられる。

- ① 県道342号線（大工町方面から千波湖）
- ② 県道50号水戸神栖線（梅香地区から千波湖）
- ③ 借楽橋（千波湖畔と借楽園公園をつなぐ歩道橋）

水戸市において西の谷公園から芳流橋までの跨線橋が都市計画決定されているものの、水戸市借楽園公園等整備基本計画には位置づけられておらず、工期、工費ともに実現可能性は低いものと目される。



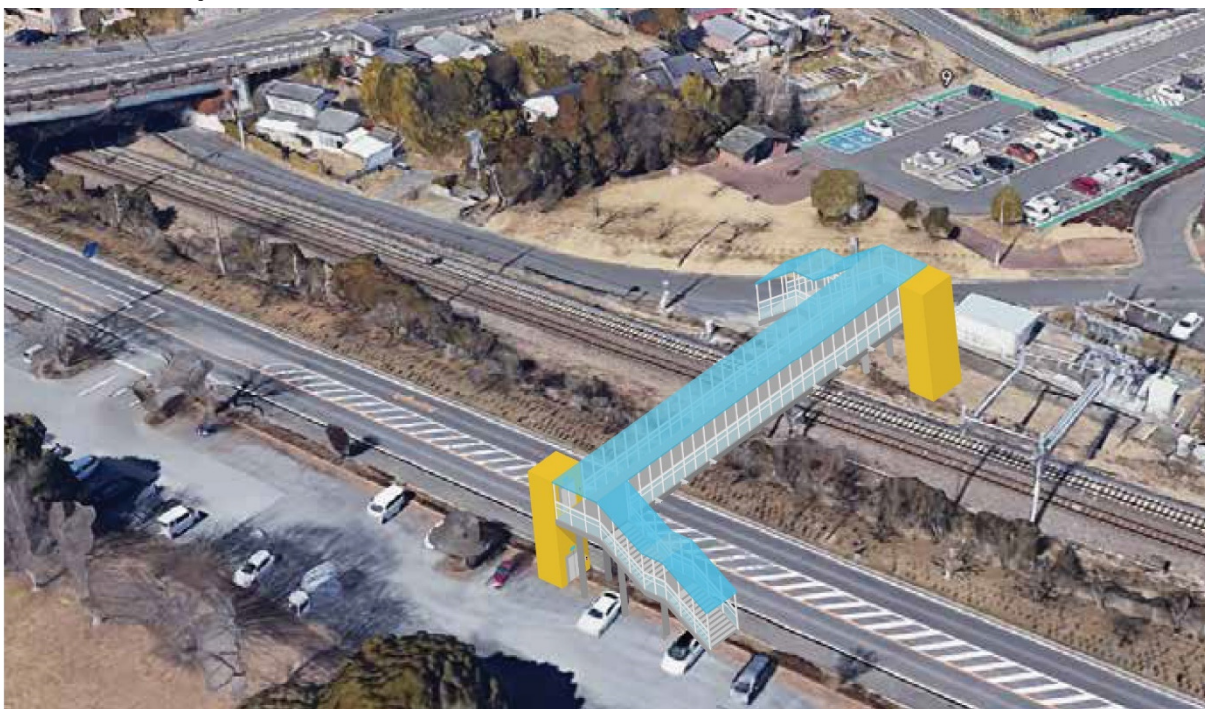
▲「M i t o r i O」エリアから千波公園へ向かう導線

提言内容

水戸市民会館を中心とした「M i t o r i O」エリアの整備による中心市街地のにぎわい創出と千波湖を核とした都市公園の交流人口をつなぎ、相乗効果を図るため、両エリアをつなぐ導線の確立が急務だと考え、現行の西の谷公園から芳流橋への跨線橋は実現可能性が低いため、同計画にかわる新たな跨線橋の設置について以下のとおりお願いしたい。

- ・ 跨線橋は西の谷公園南口から千波湖中央北パーキング脇へ設置する。
- ・ 跨線橋は歩行者および自転車が通行可能な歩道橋とする。
- ・ 跨線橋はバリアフリーの観点からエレベーター付き、および自転車も通行可能なデザインが望ましい。

- ・千波湖中央北パーキングから桜川沿いへ通じる歩行者通路を再整備し、偕楽園公園方面および芳流橋方面へのアクセス性を向上させる。
- ・本件につきまして、2024年度から計画期間となる水戸市偕楽園公園等整備基本計画に盛り込む。



▲跨線橋（歩道橋）設置イメージ



▲西の谷公園側



▲千波湖北パーキング側

〔継続提言／観光サービス部会、自動車・交通部会、食でブランディング委員会〕

（５）充実した観光インフォメーションセンターの設置および 水戸駅バスターミナル利用環境整備

現状や背景

水戸駅周辺では大手門や角櫓の復元、新水戸学の道が整備されるなど観光都市としての魅力向上が進んでいるところであるが、今後日本の人口減少とともに国内旅行者も減少していくものと思われ、アフターコロナにおいては、地域間での観光客誘致活動競争が一層激化しているものと考えられる。

今後、より多くの観光客を取り込むためには、単なる観光案内だけでないさまざまな機能を持ち合わせた大型観光案内所の設置が急務である。

問題点・課題

- ・立地は良いもののスペースが狭隘
水戸駅改札口付近にあるが、間口が狭いため収容人数が少なく梅まつりの時期などは中に入ることもできない。
- ・観光案内所での外国人受け入れ態勢
水戸駅は水戸の玄関口であり、最初のイメージが良くなければ安心して旅を楽しむことができない。外国人間のネットワークで水戸市に関する情報が広がらない。
- ・水戸駅バスターミナル利用環境整備
水戸駅は、北口と南口の両方にバスターミナルがあり、路線が多く複雑である。

提言内容

①ハード面の充実

- ・観光案内所の移転（観光客の利便性を考えた場所への移転と十分な広さの確保）
- ・レンタサイクル・電動キックボードの貸し出し
- ・行き先検索システムの構築、タッチパネル式看板の設置など

※行き先検索システム…県内の大きな地図画面を設置し、行きたい場所を指でタッチすると最寄りの停留所名や系統略図や時刻表、遅延状況などが表示される機能を盛り込んだシステム

②ソフト面の充実

- ・日本政府観光局（J N T O）外国人観光案内所の認定「カテゴリー3」取得
- ・A I 茨ひよりの活用
期待できること…24時間対応・多言語対応・取扱情報量の増加・待ち時間の解消
- ・質の高いコンシェルジュの育成

〔新規提言／観光サービス部会〕

（6）団体客に対応できる大型観光バス駐車場の整備

現状や背景

偕楽園への駐車場として多くの観光客が利用している千波湖西駐車場は、観光シーズンのピーク時には、大型バスで占有されてしまい、マイカーが駐車困難となる。また、管理する団体が違うとはいえ、D51の駐車場は無料にもかかわらず、千波湖西駐車場は有料であるなど利用者に分かりにくく不便である。

問題点・課題

大型バスで偕楽園を訪れる観光客は、千波湖西駐車場にバスを停めて東門から入園するケースがほとんど。偕楽園の魅力が余すことなく感じていただくために、表門から入園する仕組みを整備することが必要。

提言内容

①茨城県立歴史館周辺に、一時的にバスの乗降ができるバス待機場を整備

偕楽園は何としても表門から入園していただくべき。そのためにも表門および偕楽園周辺の駐車用地の確保は必須課題である。陰陽思想を体感してもらわなければ、偕楽園の魅力が半減してしまう。他の日本三名園に負けない魅力創出のために必要な対策といえる。

②千波湖周辺自家用車用駐車場の料金一律化

2. 歴史・文化を知り、魅力を語り継ぐまちに向けて

〔継続提言／観光サービス部会〕

(1) 水戸学の理念「文武不岐」の聖地づくりと武道ツーリズム

現状や背景

世界経済フォーラムが発表した「2021年版観光魅力度ランキング」では世界117の国や地域から、アメリカやスペイン、フランスなどをおさえて、日本が一位となった。

日本人の「精神性」や「価値観」が海外から高く評価されていることから、無形文化財に指定されている北辰一刀流、新田宮流抜刀術、田谷の棒術など、水戸学の理念に通じる武道・武術を観光資源として捉え、聖地としてハード面とソフト面の整備が求められる。

問題点・課題

宿泊者数は、2019年並みに戻ってきているが、外国人観光客の姿はあまり見ない状況。自らの魅力や地域の特色を発信し、リピーターや宿泊者を増やすことでインバウンドに参画することができることから、さまざまなイベントや体験プログラムを開催し、地域住民とともににぎわいを創出する取り組みが必要である。

提言内容

- ①水戸市民向け武道教室のコンテンツの拡充や、さまざまな武道が体験・見学できる機会創出
- ②藩校弘道館での定期的な演武と水戸市民協働でのイベント開催
- ③水戸東武館の隣接地に歴史資料館や新たな武道館の整備

〔新規提言／東部ブロック協議会〕

(2) 水戸市内の歴史を巡る回遊性あるルート策定と、 備前堀周辺地区の再開発による下市地区の活性化

現状や背景

泉町1丁目北地区第一種市街地再開発事業が完了し、水戸市民会館の7月開業、水戸駅前三の丸地区第一種市街地再開発事業の再開など、水戸駅から北側（上市）方面は、都市整備が進み、ソフト的な面を充実させる時期にきている。弘道館、三の丸周辺を歴史ある町の顔としてのまちづくりも進み、水戸駅・三の丸周辺に足を運ぶ機会が増え、観光振興の推進・にぎわい創出が進んでいる。

しかしながら、水戸市内には歴史的資源が数多く点在しており、それらを巡る歴史散策などのルートとなると現在は弘道館・偕楽園など上市ルートが中心であり、その上回遊性が高いとは言えない。そのため歴史資源を巡る機会を逃している状況である。

水戸市全体を俯瞰的に見ると、上市（特に中心市街地）だけでなく下市の観光・地域資源の活用についての取り組みも重要であると考えられる。

かつて下市は水戸街道の起点として大いに栄え、水戸城下の経済を支えてきたが、戦後経済の中心は上市へと移り、近年では郊外の大規模店舗に需要が移り中心市街地の空洞化も著しく進んでいる。

上市地区はまちづくりの整備・観光振興策が進められる一方で、下市地区はその流れか

ら少し取り残された感があり、まちづくり・地域活性化の点からも、行政の整備・投資・再開発は上市地区が優先されているように思われる。

問題点・課題

- ・水戸市内の歴史を巡る回遊性のある散策ルートが少なく、千波湖・偕楽園を起点としたルートが中心。特に下市地区と上市地区への回遊性の高いルート（コース）がないに等しい
- ・レンタサイクルやシェアサイクルなども活用した回遊ルートも策定されていない
- ・回遊性を高めるには、下市はハード面もソフト面も弱さが非常に目立つ（訪れる人たちへの利便性・安全性・快適性が非常に低い）

提言内容

①歴史ある資源を活用した回遊性の高いルート策定と周知

散策ルート、レンタルサイクルやシェアサイクル「みとちやり」（※サイクルステーションを下市地区にも設置）も活用した歴史景観を巡る回遊性の高いルートなどをいくつか策定し、散策を楽しむ水戸市民やインバウンド・一人観光客などさまざまな層を想定したルートで、回遊性を高めたルートにしていきたい。

回遊性ルートができることにより、歴史を再認識しながら水戸市内を巡る機会と回遊性が高まることで水戸での滞在時間増加などが期待できる。

また、回遊性の高いルート策定後はそのルートを内外の方にSNSなどを積極的に活用し周知していきたい。

②下市地区（備前堀周辺）の再開発による一体的な整備

下市には備前堀や吉田神社など多くの歴史的資源があり、観光資源として上市と一体的な整備を進めることで水戸市としての観光価値を高めることができると考える。また、単発的なイベント実施によるにぎわい創出だけでなく、水戸市民がいつでも集える場所として定着させることが、観光価値を高めるためには不可欠である。

そのため、一部分の整備ではなく歴史資源である備前堀周辺を含んだ商店街・地域拠点を含めた一体的な再開発を行い、地域一帯が景観を揃えることで観光機能も備えた交流拠点としての活用と現ハミングロードなどの生活用品拠点施設の再整備を行うことで商業の活性化と地域住民の生活基盤の充実を見込む。

③再開発による町並み整備後の取り扱うコンテンツの充実とPFIの活用

水戸で生産された特産物の販売店（水戸藩が殖産興業として取り組んだ水戸黒や七面焼き・水府提灯・地酒ほか）・レストランやカフェなどの憩いの場ともなる施設や下市の歴史がわかる施設を併設する。レストランやカフェにはPFIなどにて民間資本を導入し運営することで、観光誘致につなげる。

第6次総合計画では備前堀周辺地区は地域活動拠点として位置付けているが、第7次総合計画素案には「楽しめる交流拠点づくり」として備前堀周辺・はみんぐぱーくなどもあげられている。このことから再開発後は交流人口だけでなく子どもや親子連れ・若い世代や女性をターゲットにするなど、整備には人口ターゲット層も想定すべきである。あわせて、下市地区の再開発については、第7次総合計画にぜひ組み入れていただきたい。

(3) 歴史的遺産の整備と観光ボランティアの育成

現状や背景

水戸八景や新・水戸八景をはじめとする水戸市の歴史的遺産は重要な観光資源であるにも関わらず、案内表示や広報がなされていないため、観光資源としての活用がされていないのが現状である。特に水戸八景においては他市町村では幹線道路に案内看板が設置されるなど、観光客向けの情報開示がなされていることから、水戸市内の2か所についても同様の情報提供が必要である。



▲水戸帰帆看板
県道6号線（水戸那珂湊線）ひたちなか市



▲太田落雁看板
県道33号線（棚倉街道）常陸太田市

またインバウンド受け入れについては、水戸市の歴史を語ることのできる観光ボランティアの育成や、講演会などを開く際に説明できる程度の知識を習得した講師の登録制度を設けるなどの整備が必要である。水戸の歴史や文化、景勝地などに詳しい観光ボランティアがいることでインバウンドにおける交流が生まれ、新しい観光のあり方を模索することができると思う。

問題点・課題

- ・水戸八景や新・水戸八景をはじめとする水戸市の歴史的遺産について、いまだ十分な広報や活用がなされていない。
- ・今後回復が見込まれる外国人観光客の受入環境が不十分。

提言内容

- ①水戸市内に点在する歴史的遺産を整備し、体系的に観光ルートを設定
- ②スポット周辺の案内や看板の整備と史跡遺跡の解説看板の整備
- ③観光客のニーズに合わせバス、自転車、徒歩など複数の移動手段を設定
例：高齢者向けコース・・・観光ボランティアが同乗する専用バスを利用
半日・一日コースで水戸市内を巡る
路線バスコース・・・Ma a S（移動に関するサービスを組み合わせてワンストップで提供する取り組み）を導入し電車路線バスを利用
自転車コース・・・レンタルサイクル利用の推奨コースをスマートフォンでナビ
徒歩コース・・・スマートフォンによる徒歩で移動可能なスポットの案内や移動距離などの情報を提供
- ④水戸市内の回遊性向上と、中心市街地の渋滞緩和のための取り組み
水戸市内の回遊性を高め、かつ中心市街地の渋滞緩和のため、インバウンドについては、中心市街地外に大規模な大型バス駐車場を整備し、バスで水戸市内観光を行うために観光ボランティアが同乗する専用バスを利用。

〔継続提言／西水戸ブロック協議会〕

（４）武家社会が成立した中世の歴史遺産の発掘

背景や現状

河和田城跡は1337年、鍛冶弾正貞国により築城されたと伝わる中世城館で、その後江戸氏、春秋氏と領主の返還を経てきた水戸の中世を語る上でも重要な遺構である。河和田城跡は天徳寺、河和田小学校など東西約510m、南北600mにおよぶ広大な面積を占めており、現在も空濠や土塁、内城など現存する遺構も多く残されている。水戸市の歴史を伝える重要な遺産である。

問題点・課題

- ・観光資源として活用がない

水戸の中世を語ることのできる遺構ではあるが、水戸市民のほとんど知らない資源である。水戸市民もなかなか訪れない場所ではあるが、歴史資源は観光資源としても活用できると考えられる。また、看板などの観光案内や情報開示が少ない。

- ・徳川氏以前の歴史発掘調査の開示がない

観光資源として活用するには、埋蔵文化財の発掘調査の成果は目覚ましく江戸時代以前の新たな史跡が発見されているとのことですが、情報開示がされていない。

提言内容

- ・歴史の発掘調査の推進

徳川氏以前の歴史を発掘し整備することで、郷土の歴史教育の教材としても活用できる。また、新たな観光資源として活用することで、歴史が好きな人々の観光需要を刺激することが可能となるため、発掘調査のさらなる推進により早急なる全貌把握に努めていただくとともに、発掘調査の状況・結果を広く水戸市民に公表していただきたい。

3. 豊かな食文化を発信し、健やかな生活を提案するまちに向けて

〔新規提言／食でブランディング委員会〕

(1) 学校給食の地産地消推進

背景や現状

令和4年度における水戸市内学校給食の食材は、水戸市内産17.3%、茨城県内産（水戸市外）56.9%、合計74.2%が県内産のものを使用していると学校保健給食課から回答いただいた。また、学校給食に関する令和5年度予算は小学校が6億4千5百万円、中学校が3億6千万円となっている。

74.2%が茨城県内産と高水準であると考え、農業大県茨城として、水戸市内産、茨城県内産の食材の利用度をさらに高めることができると考える。

また、地場農産物活用促進事業による予算が小学校6千4百万円、中学校2千3百万円であるが、全体の1割程度となる。

問題点・課題

- ・約10億円の予算のうち2億5千万円が県外産の材料を使用しているため、さらに地産地消を推進できる。
- ・学校給食地場農産物活用促進事業予算は児童生徒一人（水戸市内約1万9千人）あたり年間4,500円程度とまだまだ少ないと考える。

提言内容

- ①水戸市内産、茨城県内産の食材使用90%以上を目指す
- ②学校給食地場農産物活用促進事業費などの予算増額

〔新規提言／食でブランディング委員会〕

(2) 全国納豆鑑評会の水戸での継続的開催誘致

背景や現状

納豆鑑評会は、全国納豆協同組合連合会が主催する納豆の「製造技術改善」と「品質の向上」を目指して行われる審査会である。日本が世界に誇る総合栄養食「納豆」の日本一を決めるコンクールとして毎年開催されている。

審査員が、納豆の「外観（見た目）」「香り」「味・食感」の3つの項目を評価。5点満点の整数で出展納豆それぞれに点数をつけて審査が行われ、最優秀納豆に対して農林水産大臣賞が送られる。令和4年度に平成27年度以来7年ぶりに水戸で開催された。

提言内容

- ・納豆鑑評会を毎年水戸市で開催するための関係団体への働きかけ。

要望事項

1. 中小企業振興策

〔新規要望・継続要望／小売商業部会・卸商業部会・水戸ファースト消費創造委員会〕

(1) 水戸市プレミアム商品券事業

現状や背景

令和4年度に実施した「みとちゃんのプレミアム商品券」事業では、子育て支援枠・一般販売枠を合わせ計5万セットの販売に対し、約9万4千セットの申し込みがあるなど、大変好評で、新型コロナウイルス感染拡大による経済消費の落ち込みに対し一定の効果があつたと思われる。しかしながら本事業については国の交付金決定が前提となり、安定的かつ継続的な実施が課題となっている。

足元では原油高や円安の影響による物価高などにより、さらなる消費の落ち込みが懸念される場所である。

問題点・課題

- ・新型コロナウイルスの影響が収まり人々の活動再開が期待される反面、物価高による消費落ち込みが懸念されるため、継続的な経済刺激策の実施が必要。
- ・小売業界、消費者ともに実施を望む声がある一方、事業実施のためには、国の交付金決定が前提となるため、安定した事業継続に課題がある。
- ・物価高による値上げラッシュにより、消費者（特に支出の多い子育て世帯）では厳しい状態が続いている。

要望内容

①事業の安定実施に向けた独自財源確保

国の交付金の有無に拘わらず、安定的かつ継続的な事業実施を行えるよう、水戸市独自の財源を確保していただきたい。

②子育て支援を重点対象としたプレミアム商品券の発行

最も経済的負担が大きい高校3年生までの子どもがいる世帯に対する重点的な支援として、子育て支援枠を拡充（対象者拡大…高校3年生まで・セット数の拡大）するほか、子育てやファミリー向けに商品・サービスを提供する店舗とタイアップしたキャンペーン・イベントの実施なども検討いただきたい。

実現による効果等

国の交付金の可否に拘わらず事業実施が可能となり、小売事業者、消費者双方に安定的かつ継続的な支援を実施することができる。

また、子育て支援枠の拡充により、水戸市の子育て支援策の充実につながる。

〔継続要望／情報文化部会・アートとサイクリングで元気なまち創造委員会〕

(2) キャッシュレス決済の普及・促進

現状や背景

令和元年度に実施された国や県主導のキャッシュレス還元事業によって、キャッシュレス化が一気に進み、今後もますますキャッシュレス生活が浸透することが予想される。

また、インバウンドに関しても、観光ポータルサイトと連動して、キャッシュレス決済

ができる仕組みの導入がコロナ禍で加速している。

しかしながら、適切な業者（プラン）の選択・導入後の手数料・機器導入にも費用がかさむことから、いまだ導入していない店舗が多いのが現状である。

問題点・課題

・キャッシュレス決済導入の二極化

経済産業省の調査によると、キャッシュレス決済を導入していない店舗の未導入の理由として多いのは「現状で特段不自由していない」というものである。しかしながら、消費者がキャッシュレス決済未導入の店舗を回避している実情もあり、キャッシュレス決済のメリット周知や、導入を促進するための支援策が重要と思われる。

要望内容

①店舗へのキャッシュレス決済導入の推進・独自電子マネーの創設

キャッシュレス決済導入のノウハウや費用助成施策の実施をお願いしたい。

特に小規模企業は導入費用や決済時の手数料を気にして導入に前向きではない。地元の金融機関とタイアップして水戸市民も利用できる独自の電子マネーを創設すれば、インバウンドに限らず一定の利用が見込める。ソフト面でリピーターを増やすための便利さをアピールできる施策も必要である。また、イベントや祭事におけるキャッシュレス決済の普及についても取り組んでいただきたい。

②消費者へのキャッシュレス決済の利用促進

キャッシュレス決済利用の不安解消に資するサービスや、不正対策への取り組みの訴求を通じて、無駄遣いやセキュリティなどに対する不安から利用をためらっている層の不安要素を解消し、さらなる普及促進に向けて取り組んでいただきたい。

また、高齢者のスマートフォン普及率は低いため、交通系ICカードでも利用可能な決済端末の普及促進についても検討をお願いしたい。

実現による効果等

消費者のキャッシュレス決済利用増加により、消費拡大、景気回復につながる。

〔継続要望／自動車・交通部会〕

(3) 原油価格高騰の影響を受ける運輸事業者への支援

現状や背景

ロシアによるウクライナ侵攻や円安による原油価格の高騰は、運送運輸業者の経営を圧迫している。水戸商工会議所では、令和3年11月2日から「原油価格上昇に関する特別相談窓口」を設置し、中小企業者に対する資金繰りや経営に関する相談に対応しているところである。

問題点・課題

燃料価格の上昇を運賃や整備料金の値上げに転嫁できず、利益率の低下や赤字経営に陥る事業者が多くなっている。このままでは、事業継続が困難になり、水戸市内の交通・物流・産業の安定に悪影響を及ぼす恐れがある。

要望内容

①燃料購入費用などの一部補助

令和5年7月には道路貨物運送事業者緊急支援金により、影響を受けた水戸市内事業

者を対象に支援いただいたが、社会インフラとして重要な運送運輸事業者の事業の継続、改善を図るため、水戸市内運送業などを営む事業者に対し、状況に応じて、事業に要した燃料購入費用の一部補助で支援いただきたい。

②燃料サーチャージ制（コスト増減に伴う別建て運賃）の導入

燃料価格の高騰は運送業者にとって大きな負担であり、燃料価格の増減に沿った適正な運賃・料金を受け取ることは、経営安定化やサービス向上につながる。については、国土交通省が策定したガイドラインに基づいた燃料サーチャージ制導入について、引き続き関係機関への働きかけをお願いしたい。

③トラック運送業に係る「標準的な運賃」の延長と周知徹底

「標準的な運賃」は、ドライバーの処遇改善を実現する上で適正な利益を確保できる運賃水準に引き上げるための目安となる運賃で、時間外労働規制が適用されるまで（令和6年3月末）の時限措置とされている。しかしながら、今年5月に国土交通省が公表した「標準的な運賃」に係る実態調査（<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001609538.pdf>）では、運賃交渉について荷主の理解が得られたのは、約43%と半分以下にとどまっており、回答した事業所の約7割が「標準的な運賃」の延長を希望している。水戸市内のトラック運送業者からも運賃交渉について荷主からなかなか理解が得られていないとの声が寄せられているため「標準的な運賃」の延長に対する働きかけと、あらゆる業界および関係機関への周知徹底をお願いしたい。

実現による効果等

バス・タクシー、運送業などは水戸市民の生活の足であり、燃料費上昇分を補助することにより、事業を継続できる可能性が高まる。

〔新規要望・継続要望／工業部会・建設部会・水戸ファースト消費創造委員会〕

**（４）地元企業からの物品調達促進、公共事業優先発注継続と
公共工事の品質確保に合わせた適正価格・見積期間設定**

現状や背景

厳しい経済環境の中で、地元企業を育成・発展させていくためには、水戸市内企業からの物品調達や計画的・安定的な公共工事の発注を行うなど、投資した資金を地域内で循環させ、地域経済を活性化させていくことが重要と考える。また、品質確保や地元企業育成の観点から、適正な競争原理および適正価格による発注や見積もり期間の適正化が必要である。

問題点・課題

- ・下請けを含めた地元企業への発注

指名競争入札の業者選定は、水戸市内に本店、営業所などを有する業者の保護および育成に配慮されているが、下請け業者から茨城県外・水戸市外に発注されている場合が散見される。また、一般競争入札では地元以外の業者が安値で落札することがある。

- ・見積価格

小規模工種の数量および施工困難な場所の施工は、通常価格では不可能な場合がある。

- ・公共工事の品質確保

公共工事は、予算の関係上、時期によって工事発注の起伏が大きく、繁忙期には人手

不足などの問題が発生する。

- ・人手不足、人件費・資材価格、エネルギー価格の高騰

コロナ禍で地域経済が落ち込んでいる中、公共工事の波及効果は大きいですが、ロシアによるウクライナ侵攻、円安など、複合的な要因で建設資材の高騰や確保難がある。

要望内容等

①地元企業からの物品調達促進および優先発注

引き続き地元企業の優先発注に併せて、受注事業者の下請け事業者も含めた優先的な発注および物品調達、さらに、受注事業者の偏りが無いよう公平性を確保した体制づくりをお願いしたい。また、水戸商工会議所会員への優先発注も含めた地元企業への契約優遇措置や支援制度を検討し、地元企業が水戸市役所の調達案件などに参加しやすくするため、入札手続き簡素化などの環境整備もお願いしたい。

②見積価格・期間の適正化

関係法律を遵守するとともに最低制限価格制度や低入札価格調査制度の活用によるダンピング受注防止策を継続・強化をしていただくとともに、法定福利費の明確な区分・設計書への記載、適正な競争原理および適正価格・適正工事期間による発注などにより、公平性を確保した上で施工中の進捗状況の把握と管理を強化し、適正な発注をいただきたい。

また、小規模工種の数量および施工困難な場所の施工は、通常価格では不可能な場合があるため、小口割増などでの単価改善をお願いしたい。

③公共工事の品質確保

年度をまたいだ工事発注も含めて、計画的に行えるような体制づくりを要望したい。併せて、公共工事品質確保のため、発注支援を民間会社へ外注するための体制づくりを引き続き要望したい。また、水戸市職員の技術力不足が散見されるので、知識力、技術力向上のため、他市町村も参考にするなどの対応もお願いしたい。

④コロナ対策・価格高騰・円安対策

新型コロナウイルス感染症のように各種感染症の拡大がみられた場合は、感染症対策経費を組んでいただきたい。

また、価格高騰、円安による建設資材の確保の遅れなどが想定されるので、社会情勢を鑑みた、予算確保をお願いしたい。

〔継続要望／金融・経営支援部会〕

(5) 制度融資利子補給の継続

現状と背景

水戸市の制度融資である自治金融と振興資金は平成4年から利子補給および信用保証料補給が行われており、平成29年からは小規模事業者経営改善資金（マル経融資）についても利子補給制度が復活し、中小企業者が融資を受ける際の負担軽減が図られております。

昨今では新型コロナウイルス感染症の影響や国際情勢による物価高など中小企業者を取りまく経済情勢は依然として厳しい状況が続いており、仕入費用や人件費、燃料費などさまざまな経費が増加傾向にあります。

問題点・課題

新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や世界的な物価高騰、円安といった経営上の不安材料が多い中、中小企業者が新たな融資を受けて生産性向上や事業拡大に取り組むことが困難となり地域経済の成長が鈍化する懸念がある。

要望内容等

依然として厳しい経営環境が続く水戸市内中小企業の今後の経営安定と地域経済の活性化を図るため、令和5年度以降も引き続き自治金融・振興資金の利子補給および保証料補給、マル経融資の利子補給を継続いただくとともに、さらなる地域経済活性化を図るため、現状の補給率1%の引き上げについても検討いただきたい。

実現による効果等

- ①市町村金融（自治金融・振興資金）の利用件数は前年比124%（令和3年度249件→令和4年度311件）と増加傾向にある中、金融機関の積極的な利用推進と低金利というメリットから今後も市町村金融の利用増加を見込んでおり、利子補給による金利負担軽減・保証料補給は多くの中小企業者の経営安定化につながる。
- ②マル経融資の利用件数は低調に推移しているものの、信用保証協会の保証を受けられない事業者も利用できるケースがあるため、新型コロナウイルス感染症や円安、物価高騰などの影響を受けた中小企業者にとっては有力な選択肢の一つとして捉えられており、マル経融資においても市町村金融と同様に利子補給を行っていただくことで中小企業者の金利負担を軽減し、経営改善の一助となると考えられる。

〔継続要望／社会サービス部会〕

（6）デジタル化促進による行政手続きのさらなる利便性向上

現状と背景

日本商工会議所が令和5年2月に実施した「最低賃金および中小企業の賃金・雇用に関する調査」（調査対象6,013社／回答数3,308社／回答率55%）では、64.3%の中小企業が人手不足と回答しており、地域における中小企業の人手不足が深刻化するとともに、アフターコロナにおける新しい働き方（テレワークやワーケーションなど勤務形態の多様化）を求める人々の増加により、行政の電子化推進はますます喫緊に取り組むべき課題である。

問題点・課題

- ・昨年度提出した要望に対して「デジタル化に向けたニーズ把握のため水戸市民へのアンケート調査を行うとともに、企業を対象としたアンケート調査を行う予定」と回答をいただいたが、その具体的なスケジュールが示されていない。
- ・令和元年施行の「デジタル手続法」では、その基本原則として、行政手続きを一貫してオンラインで完結させる「デジタルファースト」、一度提出した情報は二度提出することを不要とする「ワンスオンリー」を掲げ、申請や受領完了通知のオンライン化、行政組織間の情報連携による添付書類の省略など、原則オンライン化を法律で定めているところである。水戸市における現状では、一般市民対象のオンライン手続きは進展している一方で、企業の事業活動に関する行政手続きについては、申請様式はホームページ上で取得できるものの、印刷して手書き記入の上、紙媒体を自治体窓口へ直接提出するか

あるいは郵送しなければならないなど、未だ不便さが残り非効率であるという声が上がっている。

要望内容等

①スケジュールの明確化

昨年度の回答によると、現在「水戸市デジタルまちづくりビジョン」の策定過程にあるかと推察するが、具体的にいつまでに、どのような手順でデジタル化を進めていく予定なのか示していただきたい。

また、企業向けのアンケート調査の実施にあたっては、業種や会社規模などが偏らないよう水戸市内事業者に満遍なく実施し、調査結果の精度向上を図っていただきたい。

②デジタルファーストの考え方に基づくデジタル化の促進

電子帳簿保存法の改正など、世の中のデジタル化への関心は非常に高まる中、行政手続きのデジタル化は企業の事業活動上でも重要な要素となっている。企業や水戸市民がそれぞれのニーズに合った適切なサービスを選択することができ、多様な幸せを実現できる社会の早期実現を図っていただきたい。

実現による効果等

デジタル化促進に向けたスケジュールを可視化することで、提供する側も利用する側もデジタル化の進捗を把握でき、本当に効果をもたらしているかを検証することで、より実効性の高いシステムの構築を図ることができる。

また、デジタル化推進により、コスト削減（例えば、「ペーパーレス化」による、紙代やインク代などの削減、事務工数の大幅削減による人的コスト）が期待できる。

〔継続要望／キャリア教育創造委員会〕

（7）「みとっ子お仕事探検隊」への協力・支援継続

背景や現状

水戸商工会議所（キャリア教育創造委員会）では、職業選択の視野を広げるとともに、地元への就業意欲向上を図ることを目的に、夏休み期間に水戸市内の小学生（5・6年生）を対象とした職場体験事業『みとっ子お仕事探検隊』に平成30年度から取り組んでいる。

会員組織である商工会議所のチャンネルを生かし、子どもたちに水戸市の地域産業を体験してもらうことで机上では得ることのできないキャリア教育を実践し、実際の業務を肌で感じてもらう貴重な時間を提供、申込者も年々増加している状況である。

問題点・課題

本事業は、子どもたちの職業選択の視野を広げること、地元への就業意欲向上を図ることを目的とするものであり、参加対象者も毎年変わることから、継続して実施することが肝要である。今後も、行政はもちろんのこと、産学連携を推進するとともに、地域一体となった教育支援につなげ、発展的なキャリア教育推進に努めていく必要がある。

要望内容等

令和5年度も、『第4回みとっ子お仕事探検隊』実施に加え、令和2年度に作成した『水戸を担う次世代育成委員会』ホームページを活用して、オリジナル制作した職業紹介動画を公開するなど、学校教材や地元企業に関する情報提供を実施するほか、中学生を対象とした職場見学や職業体験などの協力事業所が掲載されたリストを提供し、キャリア教

育の視点から教育効果に寄与しているところである。

令和6年度以降についても、引き続き「みとっ子お仕事探検隊」に対しての協力・支援をお願いしたい。

実現による効果等

職業選択の環境を作り、職場体験を通して仕事に対する関心を育み、また自分の将来を考える機会を小学生に提供することで、水戸への関心・愛着心を高め、地元での就業意欲向上が醸成される。また、行政機関の協力を得られることで、学校・企業・地域一体となった教育支援につながる事業となることが期待できる。

2. 環境および基盤整備

〔継続要望／西水戸ブロック協議会・西部ブロック協議会〕

(1) 観光資源（ロマンチックゾーン・大塚池・成就院池周辺）の 観光客受け入れ態勢の整備

現状や背景

令和5年3月31日の閣議で、「観光立国推進基本計画」が6年ぶりに改定。訪日外国人旅行者について、人数よりも1人当たりの消費額を重視し、年間5兆円のインバウンド消費を目指す方針が示され、観光の質がより求められる状況となった。新型コロナウイルス感染症の規制緩和もあり、今後インバウンドを含め観光需要がさらに高まりを見せることが予想され、水戸市においても、観光客などの受け入れ態勢の早期整備が求められている。

問題点・課題

<共通課題>

- ・街路灯、駐車場、トイレが不足している。継続的に要望しているが、依然として観光客の受け入れ態勢の整備が進んでいない。
- ・観光地として成長していくためには人材確保が必須。学生などの若者が同地域への知識と関心をより深めていくための取り組みが必要。

<ロマンチックゾーン周辺>

- ・水戸北スマートインターチェンジから10分ほどの距離にロマンチックゾーンがあるが観光客などの集客につなげていない。
- ・旧生涯学習センター跡地が近隣にあるが有効に活用されていない。

<大塚池・成就院池周辺>

- ・大塚池、成就院池の水は、滞留している場所があるため、水質が良い状態とは言えず、周辺環境にも悪影響を及ぼしている。
- ・成就院池の流出口では、溜まった水から羽虫が発生するなど水環境がよくない。
- ・大塚池への入口がわかりにくい。

要望内容・実現による効果等

<共通>

①受入環境整備と情報発信の拡充

- ・受入環境整備は旅の満足度を高める土台。満足度を高めることでリピーターや口コミにより集客につながるほか、地域経済活性化の面でも、重要な意味を持ち、観光客がスムーズに移動し、満喫できる体制を整備することは、消費を促すきっかけにもなる。駐車場・トイレ整備・案内看板・街路灯の設置（増設）を行うことで、周辺への観光客誘客および経済波及効果が期待できる。

②観光教育の普及・促進

- ・次代を担う若者の地域への愛着・誇りを醸成し、観光の意義理解を促進することで、観光地として水戸の発展を支える人材の確保につなげる。

③イベントの開催

- ・周辺史跡などを活用したイベントを開催し、通年での誘客を図っていただきたい。

<ロマンチックゾーン周辺>

④水戸北スマートインターチェンジの利用促進とPR拡充

- ・ロマンチックゾーンの観光地としてのPR拡充と同インターチェンジの利用促進により、観光客の集客につなげていただきたい。

⑤旧生涯学習センター跡地の活用

- ・駐車場およびイベント用地確保のため、管理者である茨城県への積極的な働きかけの実施や水戸市が借り上げるなど、旧生涯学習センター跡地を多目的に利用できるようにしていただきたい。

<大塚池・成就院池周辺>

⑥水質改善・水環境整備

- ・観光資源として活用するため、国道50号南側の構造物整備水路敷地の構造物を整備し、水の滞留を除去し、使いやすくしていただきたい。

また、民間企業などとの共同事業によるアオコ除去実験や井戸からの地下水利用、大塚池南門付近の道路雨水の引き込みなど各種施策の継続と、さらなる水辺環境改善のための水質浄化をさらに推進してもらいたい。また、サギソウを守るためにも、成就院池の水質環境の改善をお願いしたい。

〔継続要望／情報文化部会〕

(2) 千波公園周辺の環境整備

現状や背景

千波公園では、観光拠点としてのなる魅力向上に向け、P-FIによる民間活力の導入や、レイクサイドボウル跡地の駐車場整備が進んでいるかと存じます。しかしながら観梅時やイベント時など、千波公園西駐車場などが満車の際、近隣駐車場への案内がなく、利用者が不便を感じる場面が見受けられる。

迎賓機能を備えた「The 迎賓館 偕楽園 別邸」が開業し、県内外から多くの集客が見込まれることから、引き続き渋滞緩和策を講じる必要がある。

また、周辺の整備と併せて、新たな中心市街地へ誘導する手段の検討や新たな観光スタイルの検討も必要である。

問題点・課題

- ・満車時の駐車案内

千波公園周辺の駐車場間の連携がとれておらず、満車の際に他の駐車場への案内がない状況が見受けられる。

- ・レイクサイドボウル跡地周辺の渋滞

千波湖周辺の駐車場は日常的に多くの水戸市民が利用している。特に千波湖ふれあい広場などでのイベント開催時には周辺駐車場が満車となり、渋滞が見受けられる。「The 迎賓館 偕楽園 別邸」の開業により、多くの集客が見込める一方、さらなる周辺道路の渋滞も懸念される。

要望内容・その効果等

①レイクサイドボウル跡地周辺の駐車場整備

レイクサイドボウル跡地の駐車場整備については、それ単体で捉えるのではなく、千

波山公園少年の森駐車場、千波公園D51駐車場を含めて体系的に捉えて計画を進めるべきである。

乗用車、大型観光バスの駐車スペースを再配置し、場合によっては既存の道路の再整備をすることで、より利用しやすい駐車場となる。

また、千波公園周辺駐車場間の連携強化を図ることで利用者の利便性を確保し、観光客の増加が図れるとともに、レイクサイドボウル跡地の整備と併せて、周辺の道路整備を行うことで渋滞を緩和し、観光客の円滑な受け入れ態勢を整えることで、利用者の増加が見込める。

②レイクサイドボウル跡地周辺の渋滞緩和

再開発に合わせて駐車場スペース再配置や県道の右折レーンの拡充に取り組むことで、渋滞の緩和につながる。

③新たなモデルルートの策定

水戸市街地外縁の駐車場からまちなかに誘導する移動手段の確保や、レンタサイクルを活用した新たな観光スタイルを構築することで、中心市街地活性化や新たな観光振興につながる。

④フリーWi-Fiの環境整備

「千波公園」周辺環境の整備に伴い、インバウンド増加が見込まれることから、屋外でも利用できるフリーWi-Fi環境が整備されることで、おもてなし向上につながる。

〔継続要望／自動車・交通部会、西水戸ブロック協議会〕

(3) 水戸市内の渋滞緩和

現状や背景

自家用車利用が移動手段のメインである茨城県においては、交差点を中心に各所で交通渋滞が発生しており、水戸市においても状況は同様である。

問題点・課題

交差点の渋滞は、速度低下や時間の浪費によって経済的損失をもたらすだけでなく、二酸化炭素排出量の増加や物流コストの上昇など、さまざまな問題を引き起こしていることから、効果的な渋滞対策の必要性がある。

要望内容等

- ・水戸市内渋滞箇所の洗い出しと原因究明

水戸市内で日常的に渋滞している箇所の洗い出しと原因究明を行い、深刻度・緊急性などを考慮したうえで、昨年度回答にあった「国土交通省常陸国道河川事務所」をはじめとする関係機関との連携強化を図りながら、早急な渋滞改善策を講じていただきたい。

実現による効果等

東京都が実施する渋滞対策事業（交差点すいすいプラン【参考：第3次交差点すいすいプラン<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/content/000005985.pdf>】）では、道路幅員の狭い交差点で、右折待ち車両による渋滞を緩和するために、交差点近くの用地を取得し、右折車線や歩道などを整備し、通過時間の短縮や経済的な効果が生まれている。八王子市の上川橋交差点では、改良前は15分かかっていた通過時間が大幅に短縮され、経済的な効果は年間3.5億円になったというデータもある。

〔継続要望／自動車・交通部会・アートとサイクリングで元気なまち創造委員会〕

(4) 自転車通勤の促進および自転車・電動キックボードの利用増加に伴う

安全教育の実施

現状や背景

近年、企業における健康経営に注目が集まり、福利厚生の実施や通勤時の運動促進などの取り組みが盛んとなっており、その一環として自転車通勤の推進も注目されている。

また、令和5年4月からシェアサイクルサービス「みとちやり」が開始されたほか、7月には、電動キックボード（特定小型原付に該当するもの）の利用について、16歳以上という年齢制限をクリアすれば、運転免許証不要、ヘルメットの着用は努力義務となるなど、移動ツールの選択肢が増加している。

一方で現在、自転車・電動キックボードともに努力義務となっている乗車時のヘルメット着用の着用率は未だ低く、交通事故による死亡リスクの高さなどが問題となっている。

問題点・課題

- ・ヘルメットの着用率

自転車乗用中の死者はほとんどがヘルメット非着用であり、ヘルメット着用率を向上させるための取り組みが必要。

- ・高校生の自転車マナー

朝夕の通勤・通学時間に自転車・自動車・歩行者が混在する狭隘な道路で、逆走や停車中の車の中から突然飛び出すなど、危険な走行をする高校生と遭遇したとの声が寄せられているため、継続的に交通ルールを指導する場が必要。

- ・キックボードの安全利用

自転車と同じ感覚で乗ることができる電動キックボードだが、事故や交通違反の対象になる可能性があるがその認識が低い。

要望内容等

①自転車通勤の奨励

水戸市内の企業における自転車通勤の推奨を促進する取り組みを引き続きお願いしたい。健康経営と環境負荷低減を両立する自転車による通勤の促進は、水戸の企業価値を高めるものと考えられ、水戸市のイメージ向上にも寄与するものである。については水戸市で取り組まれているノーマイカーウィークや自転車通勤チャレンジウィークの開催と併せ、自治体対抗の自転車通勤キャンペーンの開催などの実施もお願いしたい。

②ヘルメット着用率および自転車のマナー向上に向けた普及・啓発活動の強化

令和5年4月から自転車のヘルメットの着用が努力義務化されたことから、着用率向上のための普及・啓発活動と併せ、自転車のルールについて学ぶ安全教室や、その効果をさらに高めるための、自転車通勤・通学者対象のキャンペーンを実施していただきたい。

また、キックボードについても自転車同様に安全利用に関する取り組みを実施していただきたい。

実現による効果等

交通事故の減少につながるほか、健康経営と環境負荷低減を両立する自転車による通勤の促進は水戸の企業価値を高めるものと考えられ、水戸市のイメージ向上につながる。

また、安心して自転車や電動キックボードを利用できることで、観光客や地域住民が積極的にそれらを利用しまちなかを回遊することで、車では発見できないまちなかの魅力を発見しやすくなり、観光振興や地域の活性化に資することも期待される。

〔新規要望／南部ブロック協議会〕

（５）レンタサイクル「みとちやり」のステーション拡充

現状や背景

水戸市内のレンタサイクル事業は、水戸市の運営する「みとちやり」と水戸観光コンベンション協会が運営するレンタサイクルがあり、梅まつり期間中など観光客および水戸市民が水戸内の観光資源を回遊しやすい取組みがなされている。

問題点・課題

「みとちやり」においては、水戸駅北口・弘道館・京成百貨店・水戸市民会館・大工町周辺・アダストリアみとアリーナ・偕楽園にステーションが設置されているが、水戸駅南口エリアにはステーションが存在しない。

また、水戸観光コンベンション協会が運営するレンタサイクルは、水戸駅北口・水戸駅南口・千波公園にステーションが設置されているが、中心市街地にステーションがない。

水戸市と観光コンベンション協会のレンタサイクル事業は互換性がなく、水戸市内における重要な観光資源である千波公園や徳川ミュージアムから中心市街地へ回遊しにくい現状にある。

要望内容

「みとちやり」のステーションを、千波公園をはじめとした水戸駅から南側のエリアにも設置し、レンタサイクルでの回遊エリアの拡大、または観光コンベンション協会が運営するレンタサイクル事業との連携を図っていただきたい。

実現による効果等

レンタサイクルのステーション設置による回遊エリアの拡大により、中心市街地と水戸駅南側をつなぐ相互作用による利用者の増加、観光客の利便性の向上が期待できる。

水戸駅南側を含む回遊エリアの拡大は水戸市内においても、今後、水戸市民会館で開催されるさまざまな催しやアダストリアみとアリーナでのスポーツ観戦などに参加しやすくなることで地域の活性化につながると考えられる。特に千波公園、徳川ミュージアム、桜川緑地、逆川緑地など水戸市南部の観光資源にレンタサイクルのステーションを設置しつなげることで、主に観光客が中心市街地からそれぞれの施設へアクセスしやすくなり、利用者数の増加、回遊性の向上を図ることができる。

〔継続要望／建設部会〕

（６）中核市としての充実

現状や背景

水戸市が活力ある発展を続けるには、歴史と伝統・芸術・文化・豊かな自然など、水戸ならではの個性・特色を育み、まちの魅力を高めるとともに、地域の実情に合ったより質の高い市民サービスの迅速かつ効率的な提供を行いながら、自主性・自立性の強化に努めることが必要と考える。

問題点・課題

- ・中核市としての機能が生かしきれていない

保健衛生行政の分野においては、県から移譲された事務権限を生かした、新型コロナウイルス感染症対策への一定の評価ができる。一方で、各種データを活用した取り組みが推進されていない。

中核市移行の概要にあるように、水戸市民が誇れる住みやすいまちづくり、特色を生かした自立したまちづくり、選ばれる魅力的なまちづくりを目指しているが、なかなか進んでいない。

- ・アンケート調査が生かされていない

令和4年提出した本要望に対して、「アンケート結果については、しっかりと分析を行い、適切に政策により入れる」との回答があった。水戸市民の声であるアンケート結果を施策として早急に反映していく必要がある。

要望内容

- ①水戸市民の意見を集約する意見交換会の開催

令和4年度の要望に対する回答には、「意見交換会を要望に応じ実施していきたい」とあることから、早急な開催をお願いしたい。

- ②アンケート調査結果の活用

昨年度実施した「—あなたと描く水戸の未来—市民1万人アンケート」の調査結果を施策に生かした取り組みを推進していただきたい。計画づくり、まちづくりを進めるため、計画の公表をお願いしたい。また、その計画について、水戸市民の意見を組み込むアンケート実施も検討いただきたい。

3. 中心市街地等地域活性化策

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

(1) 中心市街地における居住環境整備（利便性向上）

現状や背景

現在、中心市街地では食料品や生活必需品などの買い物に不自由する状況で、とりわけ高齢者にとっては大きな問題となっている。

中心市街地ではマンションの建設が増えており、居住人口の増加が見込まれるが、まちなか居住者のための利便性の高い施設はなかなか増えていない現状である。

問題点・課題

- ・利便性の低い居住環境

中心市街地において食料品や生活必需品を購入する施設が少なく、特に高齢者にとって大きな問題となっている。市民アンケートの結果からも中心市街地に不足していると思う施設として、食料品や日用品などを購入する店舗が上位に挙げられている。平成30年5月に新設された南町2丁目の分譲マンション1階にミニスーパーが出店したことや、水戸駅内への出店など徐々に店舗が増えており、令和6年には大町の県公館跡地に食品スーパーが開店する予定ではあるが、今後のマンション建設により居住人口増加が見込まれるため、店舗の充実は必要不可欠である。

要望内容・実現による効果等

①施設誘致について

中心市街地の生活利便性向上に向け、食料品を取り扱うスーパーマーケットや、生活雑貨、日用品を取り扱うドラッグストアなどの商業施設の誘致を引き続きお願いしたい。

②施設誘致計画の具体化

民間事業所からの出店を待つ受け身の体制では、事業所誘致は難しいところがある。行政としての誘致計画をより具体的に策定し、まちなかのにぎわい創出をお願いしたい。

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

(2) 巡回タクシーの運行と新たな交通手段の整備検討

現状や背景

水戸市における路線バスについては、郊外と市街地間の移動が円滑に行えるよう、路線の再編を含めた次期公共交通基本計画の策定も踏まえ、現在見直しが進められているところと認識している。

一方で、路線バスが乗り入れていないエリアにおいては十分な交通インフラが確立されていない状況であり、交通弱者の孤立と行動意欲の低下が懸念される。

令和4年度、水戸市の中心市街地では水戸市と民間事業者が連携して新しい交通システムを利用する社会実験も行われたところであり、今後、市街地のみならず郊外エリアにおいてもインフラの隙間を埋めるモビリティとしての役割が期待される。

問題点・課題

既存の路線バスエリアに含まれない地域や郊外部においては、自家用車を持たない、な

いしは運転することができない高齢者をはじめとした交通弱者が一定数いるものと目されており、路線バスエリアに含まれない地域や郊外部を埋めるミニマムな交通手段の確立が求められる。

要望内容等

①巡回タクシーの整備検討

路線バスが乗り入っていないエリアでは、定期的な巡回タクシー「水都（すいっと）タクシー」が運行されているが、交通弱者のさらなる利便性向上を図るためには、現在の限定した対象地点と対象地区の区域間のみの利用ではなく、呼び出しバスのように利用者が自由に出発地点と目的地を設定し、水戸市内を自家用車のように回遊できるシステムを導入することで、高齢者をはじめとする交通弱者の利便性向上と買物難民解消、水戸市内施設の回遊性向上にもつながるものとする。既存の「水都タクシー」のさらなる利便性向上を検討いただきたい。

【参考】高萩市で実証運用している呼び出しバス「My Rideのるる」

<https://www.city.takahagi.ibaraki.jp/kurashi/koutsu/page003407.html>

②新たな交通手段の整備検討

昨年度実施されたグリーンスローモビリティをはじめ、小さいエリアを巡回する新たな交通手段は地域交通弱者の支えとなり、また路線バスやデマンドタクシーなどに比べ運営コストが抑制され、民間に委託することで地元企業の雇用継続にもつながることが期待される。ついては、昨年度の事業効果の検証を踏まえた新たな交通手段の導入に向けた検討をお願いしたい。

実現による効果等

中心街と周辺地域のアクセス性が向上し公共交通を含めた人流の活性化が期待できる。

〔継続要望／小売商業部会〕

(3) まちなか固定資産税軽減と企業立地助成制度の改正

現状や背景

中心市街地の空き店舗率は、令和4年時点で15.7%と平成26年値の21.4%に比べ改善は見られるものの、全国平均の13.59%と比べ、依然として上回っており、水戸市が抱える商業環境の低下が浮き彫りとなっている。

また、近年は水戸駅前や泉町地区などを中心に商業ビルの取り壊しとマンション建設が進んでおり、ますます商業地域としての機能低下が懸念される。

茨城県内における公示地価は令和5年1月時点で31年ぶりに上昇が見られたものの、県内地域の底上げによる結果とされており、水戸市においては相対的に地価の下落が続いている状況である。

問題点・課題

- ・中心市街地、特に国道50号沿いの沿線は固定資産税が郊外に比べ高いことから、地価（家賃）を下げにくい状況があるため、新規出店に対する負担が大きい。
- ・現行の企業立地促進補助金は郊外型の大型工場、商業施設を対象とした制度のため、中心市街地の小規模の出店には対応しにくい。

要望内容等

創業者が新規出店するうえでハードルとなる家賃など固定費を削減する必要がある。

中心市街地および下市地区の商業区域における空き店舗の解消を目的に、家賃の引き下げなど一定条件を満たした賃貸主に対する固定資産税の軽減など、空き店舗への出店ハードルを引き下げる施策の実現をお願いしたい。

また、現行の企業立地促進補助制度に関しては対象面積の兼ね合いから中心市街地などの既存商業区域への出店は対象となりにくいことから、同制度の見直しを行い、小規模の企業出店にも対応した制度となるようお願いしたい。

実現による効果等

中心市街地の空き店舗の解消が期待され、まちの新陳代謝が促進されることで、あらゆる商業環境の整備に寄与するものと期待できる。

〔新規要望・継続要望／中部ブロック協議会・西水戸ブロック協議会〕

(4) 空き店舗率の改善に向けた取り組みへの連携と支援および支援地区の拡大

現状や背景

水戸商工会議所では、平成30年度から、「水戸まちなか空き店舗見学ツアー」の実施や水戸まちなか空き店舗ナビなどを活用し、空き店舗率の改善を図っている。

令和4年度の中心市街地の空き店舗率は15.7%となっており、第1期水戸市中心市街地活性化基本計画で定められた目標値の16.0%を達成したものの、いまだ空き店舗が目立つのが現状である。

また、水戸の副都心として整備された赤塚駅周辺においても、水戸市全体の経済活性化の観点から、同様に商業地域のにぎわい創出が必要と考える。

問題点・課題

- ・空き店舗率のさらなる改善

中心市街地の空き店舗率は「水戸まちなか空き店舗見学ツアー」や「ワグテイル」での起業・創業セミナーなどのイベントの開催により、前年比では改善傾向にあるが、いまだ、まちなかでは空き店舗が目立つ。

- ・施策の地区が限定的

中心市街地には空き店舗補助金など施策があるが、赤塚駅周辺では補助金制度がないため開業しにくい。

要望内容・実現による効果等

①ワグテイル利用者への案内

ワグテイルの利用者が中心市街地の空き店舗に出店しやすくなるように、「水戸まちなか空き店舗見学ツアー」への積極的な参加を呼び掛けていただくなど、第2期水戸市中心市街地活性化基本計画で定められた空き店舗への年間出店目標数である8件を達成すべく、引き続き水戸商工会議所との連携をお願いしたい。

②各種支援制度のさらなる周知

コロナ禍において企業や事業所などの地方移転に係るニーズが高まっていることから創設された、「サテライトオフィス等開設促進補助金」をはじめとする各種支援制度のさらなる周知に努めていただくとともに、制度利用の際の簡便化・即効性をお願いしたい。

③各種支援制度の対象地区拡大

赤塚駅周辺がさらなる発展を遂げるため、中心市街地と同じよう空き店舗補助金や新規開業者への補助などにぎわい創出につながる施策展開をお願いしたい。

〔継続要望／中部ブロック協議会〕

(5) 『IBARAKI FREE Wi-Fi』設置施設の拡充および Wi-Fiを活用したサービスの提供

現状や背景

スマートフォンなどの情報端末が普及し、どこでも高速なインターネットに接続できるWi-Fiは、必要不可欠な情報インフラとなっており、整備されているエリアには、多くの人の滞留が期待できる。

また、災害時の通信手段にも活用できるほか、人流・行動のビッグデータを活用し、まちづくりに生かす取り組みにもつなげることができる。

問題点・課題

・Wi-Fi設備について

DX化は店舗にとっても必要であり国も推奨しているところである。県が導入している「IBARAKI FREE Wi-Fi」は現在水戸市内96か所（令和5年7月末日）と、まだまだ不足しているのが現状である。特にまちなかの民間事業所への普及は、にぎわい創出につながるだけでなく、災害などで電話回線が利用できなくなった場合でもインターネットにアクセスでき、連絡・情報収集のツールとして利用できるなどの利点がある。昨今はテレワークの普及などもありWi-Fi設備はますます重要になってきており、ICTインフラの整備が急がれる。

要望内容・実現による効果等

①「IBARAKI FREE Wi-Fi」設置施設の拡充

現在、水戸市民センターなど、水戸市内96か所で運用されている「IBARAKI FREE Wi-Fi」について、茨城県をはじめとする関係機関との連携を密にし、設置施設のさらなる拡充を図っていただきたい。

また、Wi-Fi環境の整備に当たり、費用面で不安を抱える事業者も多いことから、設置に対する助成制度の創設、また、その後の運用面でのサポート体制などの整備も合わせて検討いただきたい。

水戸市民会館が開館し、来街者のさらなる増加が予想されるなか、特にまちなかの民間事業所において設置施設が増えることは、まちなかでの滞留時間が増加し、人流増加にもつながる。

事業所独自でフリーWi-Fiを設置している場合もあるが、来街者にとっては、フリーWi-Fiの設置間隔が広いと接続が途切れるほか、対象施設をはじめて訪れた場合はその都度接続手続き（パスワード入力など）が必要になるなど不便な点が多く、「IBARAKI FREE Wi-Fi」の設置施設が拡充されることは最も効率的で効果が高いと考えられる。

②Wi-Fiを活用したサービスの提供

今後、インバウンドの回復が予想されることから、インバウンドをはじめ日本人観光

客へのサービス向上のためにもW i - F i を活用したクーポン券の発券や地域通貨の利用、スタンプラリーなどのイベントを実施し、商業振興に寄与するような仕組みづくりを、引き続き検討いただきたい。

〔継続要望／小売商業部会・情報文化部会・卸商業部会〕

(6) 中心市街地における防犯カメラの設置、設置助成金の創設

現状や背景

現在、水戸駅や大工町の繁華街などに58台、水戸市民センターや学校をはじめとする公共施設を含め約800台の防犯カメラが設置されている。安心安全なまちづくりは、誘客の促進、商業の振興につながっている。

近年、昼間の大通りで貴金属店を狙った強盗事件が起こるなど、急激な治安の悪化が心配されており、水戸市においても弁当販売店などを狙った強盗事件が発生しており、さらなる安心安全な街づくりが急務となっている。

問題点・課題

中心市街地の商店街では、夜間に落書きをされたり、窓ガラスを壊されたりするなどの被害がでていることから、防犯カメラの設置要望が出ている。

また、新型コロナウイルスの終息にともなう人流の増加により、夜間のいたずらなどの増加も懸念される。

劇場型犯罪や凶悪な強盗事件が全国的に多発している昨今において、市街地の防犯カメラの増設は有効だと考えられる。

要望内容等

①市街地における防犯カメラの継続的な増設

防犯カメラの設置については、昨今増加する凶悪犯罪を抑制する効果があり、安心・安全な街づくりの観点からも市街地における設置数の増加を図っていただきたい。

②民間への防犯カメラ設置補助創設

民間への防犯カメラ設置について、より多くの事業所で設置が進むよう、設置に関する助成金の創設をお願いしたい。

③防犯カメラの増設による犯罪抑止力検証データの公表

防犯カメラの増設による犯罪抑止力の検証データを公表し、民間主体による設置の推進にもつなげていただきたい。

実現による効果等

安心・安全な街づくりに寄与し、にぎわいの創出につながることを期待できる。

〔新規要望・継続要望／自動車・交通部会、中部ブロック協議会〕

(7) M i t o r i O (ミトリオ) 周辺エリアの環境整備・イベント実施

現状や背景

7月に開館した水戸市民会館、水戸の新たな文化とにぎわいの発信地水戸市民会館周辺エリア(愛称:M i t o r i O)は、中心市街地のさらなるにぎわい創出に大いに寄与するものと期待されている。

問題点・課題

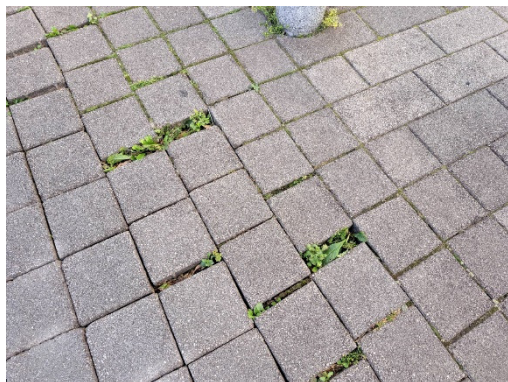
・周辺エリア駐車場の利便性

昨年度、自動車・交通部会から政策提言した事項「市民会館周辺における駐車場の利便性確保」に対する回答では、「市民会館周辺にある4施設の満空情報を表示する『満空表示板』を茨城いすゞビルの交差点付近に設置する」とあるが、混雑時のことを考え中心市街地に入る前に確認できるような整備が必要と考えられる。

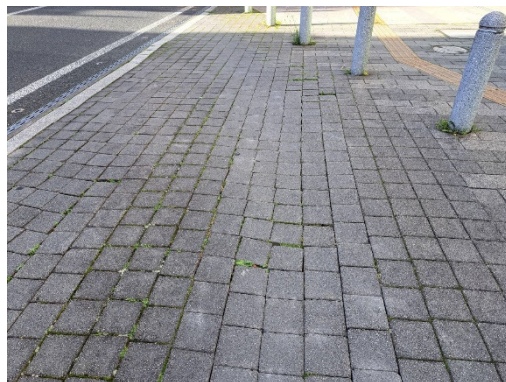
また、水戸市民会館オープン前も、京成百貨店で物産展が開催される際には、周辺で長い渋滞が発生しており、渋滞回数は今後さらに増加することが予想される。空き駐車場を探すためのノロノロ運転や急な右左折などが事故につながる恐れもあり、M i t o r i O全体で対策を講じる必要がある。また、公共交通機関での来訪を一層促進していくことも重要である。

・京成百貨店西側歩道の劣化

開館に向けて整備された水戸市民会館周辺の道路や歩道は、歩きやすく、景観が向上した。しかし、同エリアの京成百貨店西側の歩道は整備されていないため、段差や亀裂など劣化し、通行時に危険が生じている。また、水戸市民会館周辺との景観統一も課題である。



▲石畳の間にスキマが生じている



▲車両乗り入れのためゆがんでいる石畳

・千波公園西の谷設備の老朽化・回遊性

千波公園西の谷は無料の駐車場や薬草園など、近年整備が整ってきていると思われるが、一部栈橋や泉町への導線である階段に老朽化が目立つ。特に栈橋は老朽化により一部通行が禁止されている箇所があり、景観を損ねている。階段も一部ぐらついており、破損すれば大きな事故につながる恐れがある。



▲一部老朽化のため立ち入り禁止の栈橋



▲ねじが外れぐらついている階段

また、まちなかと千波公園をつなぐ大動脈として重要な位置にある西の谷は、知名度が低く、まちなかから西の谷へのアクセスポイントもわかりづらいため、回遊性も低く感じる。

要望内容・実現による効果等

①「満空表示板」の設置箇所を中心市街地に入る前に確認できるよう、大工町側と水戸駅側の双方向に設置いただきたい。

②公共交通機関の利用促進

利用者には公共交通機関の利用を促進する仕組みづくりとして、公共交通機関を利用した人を対象にクーポンの発行やポイントを付与するなどの利用促進策を実施いただきたい。

③京成百貨店西側歩道の修繕・整備

経年劣化による段差や亀裂が生じており、修繕が必要である。きれいで歩きやすい歩道となるよう、割れている石畳の交換や車が乗り入れている場所のゆがみの修繕をお願いしたい。

また、修繕の際は、水戸市民会館周辺の歩道と統一性（一体感）のあるものとなるよう、配慮いただきたい。「M i t o r i O」エリアとして水戸市民会館周辺と統一性のあるデザインの歩道となることで、「M i t o r i O」エリアとしての導線もわかりやすく、来街者の回遊性向上につながるものとする。

④千波公園西の谷の設備改修・修繕、回遊性向上の取り組み

トイレやベンチなどの設備があるが、憩いの場の公園としては設備が少なく、一部栈橋や階段の劣化が見られる。特に設備の劣化は大きな事故につながりかねず、早期の改修・修繕をお願いしたい。

また、千波公園とまちなかとの回遊性向上のため、大通りからの導線整備と誘導をお願いするとともに、西の谷の認知度向上のため、その活用方法などについても、広く周知をお願いしたい。